

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 8 - 2

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		道営かんがい排水事業(国営附帯)雄武中央地区				
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名		農務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
	氏名	石井弘道			氏名	苫米地幸二
事業の概要		当地区は、牧草を期間作物とする酪農専業地帯であり、保水性に乏しい重粘性土壌が広く分布した無水地帯である。かんがい期間中の降水量も少なく干ばつ被害が頻発し、営農を阻害している。畑かん施設の導入により、粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るとともに、営農労力を節減し、粗飼料生産の向上により酪農経営の安定を図る。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 8,000 千円 地方債 66,300 千円 その他 46,120 千円 一般財源 119,655 千円 事業費計 240,075 千円
実施方法		直営	民間委託	その他 (道営)		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	1 土地基盤の充実				
	事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	4,200 千円	12,500 千円	18,700 千円	22,500 千円	7,100 千円
	その他財源	4,240 千円	21,080 千円	18,750 千円	千円	千円
	雄武町負担額(一般財源)	6,831 千円	42,326 千円	30,050 千円	33,750 千円	10,675 千円
	合計	15,271 千円	75,906 千円	67,500 千円	56,250 千円	17,775 千円

111

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道営かんがい排水事業受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	干ばつによる営農への影響	管路整備延長			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	畑かん施設導入により、粗飼料の高位安定及び品質の向上	指標(指標計算式/解説)	L = 33.53km/全体整備延長	目標年度	平成24年度
				目標値	34 km
				実績値	6 km
				達成度	17.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定を図る。			目標年度	
				目標値	
				実績値	
				達成度	%
内容(どのような手段で何を行ったか)					
管路整備	L = 5.768km				

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	国営附帯施設として、末端の畑かん施設を整備し、粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るために必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定を目指すうえで有効であるが、道の予算の関係により計画を下回っている状況である。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	事業主体については北海道であり、事業を進めるにあたり都度協議を行い、測量試験費の軽減を図るなど、事業費抑制策を講じている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

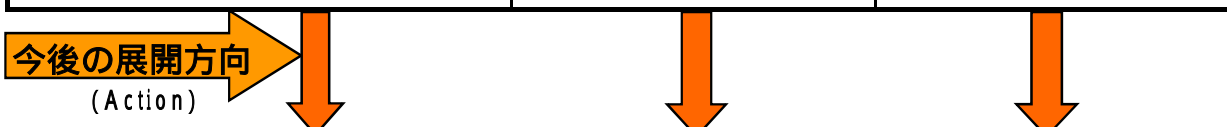
(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	道営かんがい排水事業受益者全体が対象
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価(A～D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
総合計画より事業の進捗状況は予定に達していない状況ではあるが、現状の道の予算状況を勘案すると、順調であると思われる。		



継続 / 現状維持		
同事業が完了するまで現状維持が適当である。(目標完了年度平成24年度)		

* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--